



月
後
漢
書
卷
之
四
十
九

後漢書卷之四十九

13
1459
4

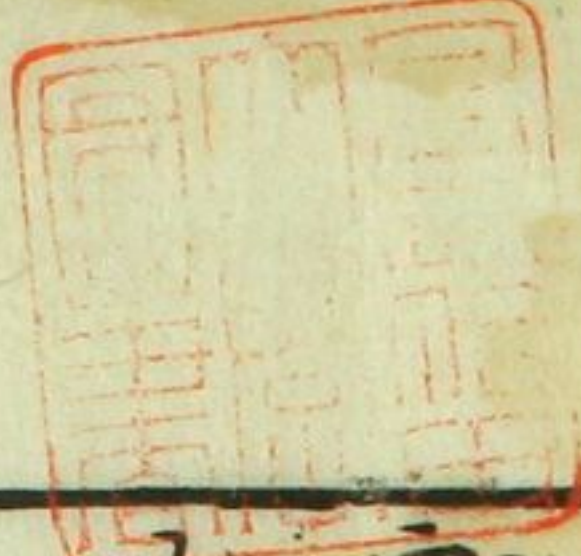


遠 13
459
4

怪談 藤垣系巻之四

明家の怪談の活

實曆の比戸村律義と云ふ子大カ剛勇の浪人あり其流
ものや一と云ふ怪免と云ふはぬぬ戸あつてよと云ふ人と
もと免んと云ふ川のかとりあつた中縁をもとめ住居り
しが其免ん遠よ人の住居る廢家あり其の家もと云ふ
武士の居宅ありしがその好町人彼家みうはりむむとい
へどもどうく一ヶ月と居るものや家を替へばと云ふ後
よたれりふともなく始住居る士のあゝ妻いさうのこと



のりとも封せしより彼士もやとありまどらに封じ死
 したりた彼女の具よるくいけるより沙汰しるかとお娘
 おつとけもの屋敷といひかゝるも一終めその五年のあか
 ぼものまうりしうぶ家主たよなをたあまれ大割の人あり
 て彼妖怪の宿をたぐり世の悪徳ととも老人とて林で
 たもひ居たりしとあけり幸ひ戸村のふかきとさ
 およひ彼手紙をもとえと彼方よりあうくのよしを
 頼られし付書あうりやとくされとうけしうぶおんその
 怪おとえとせんといひしれいおんをたようらういび

又方よりたごり焼茶籠などもちとらび彼侍を
 れおれを家よおし居りしり戸村おれをれもしりさ
 ぶとくおもひ何案をけものを人よありとつらありあ
 まれおようしえとごんものどかーとまごころも
 吾うり良ししものお娘めりしりしうぶ風しとまうく
 してものすごとく二階よ人よあけりるごととまらうとお
 もへが止まうくはるつとまらうりしり戸むもまうく
 人のちしし遠くごとと息と張るまらうりしりしとま
 らくして二階よりわたりお書ありたうをとおしりし



怪談
草子
卷四



怪談
草子
卷四

まづうきと取しなすし柳れきうが主大母れど後さ
 どのそく医師とよびむうへ医王やうちまぐとよとつく
 一なるややみぬお息いごりれが其子細と空よせ乃取
 もう一え川の流被おん那の形焼おむらひととぐお健よか
 と誠志とさんとすかやと後成ほりりと死て接うちよ切
 付んとととふところぬ被れんを伴養ととれたとあうとよ
 り一燈のおとく成ものと面上おふたうとふその身
 たへうとく屍存おどうとあをどうりーが其後どうつとと
 況今お解身の結りーとあとうーをまひてかろりーが

其れちる被怪ものをもぐとと休養も不款の仕業を止
 りふとねり

池の靈子成せる結

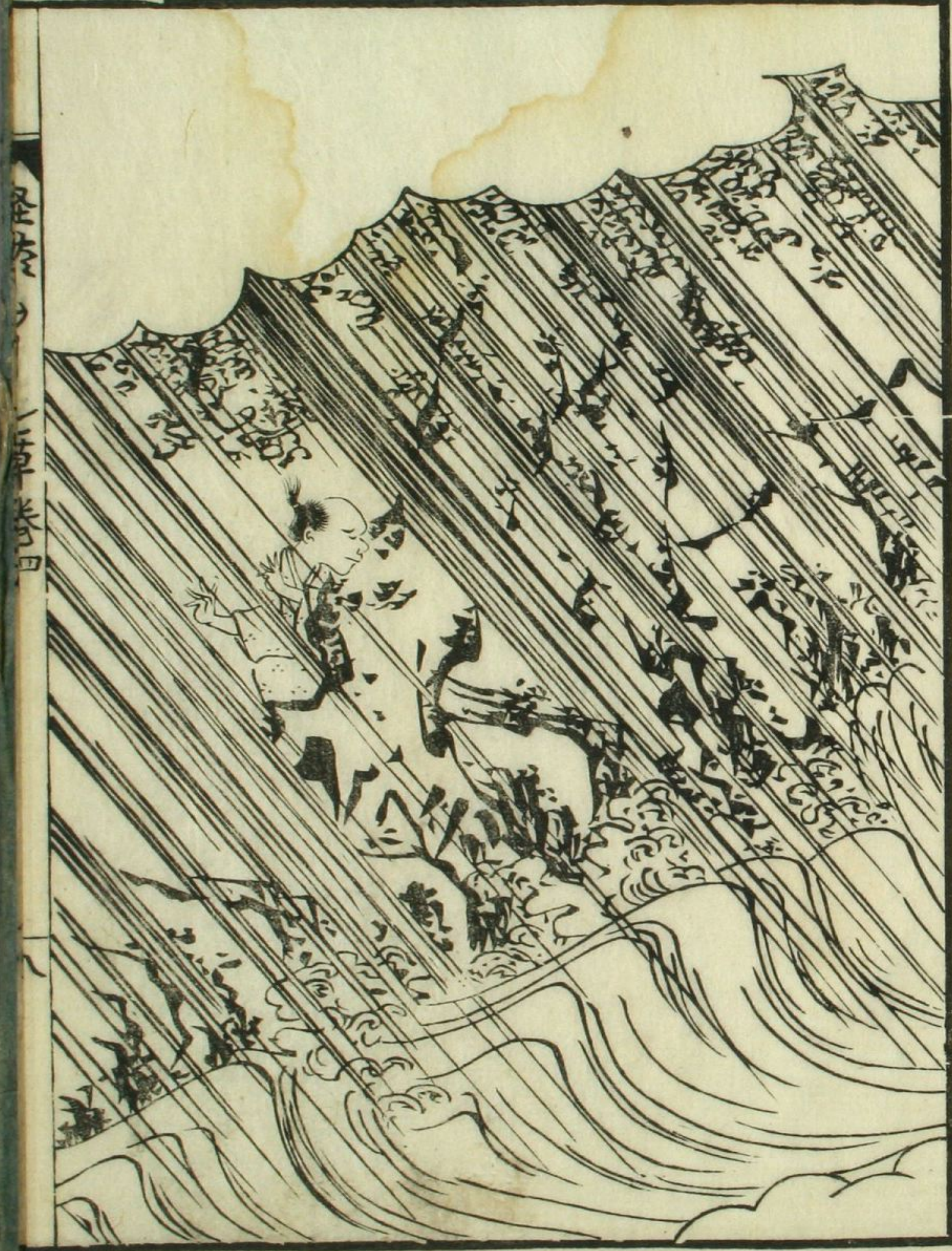
先お云一ととと深さん幽ととみら写く山怪の人ととと
 よびぐくおんたよ深一其子とまといお小しおかおふと
 人におもいおとくまのあつり安およびつるふとも又
 多一あかが中お知れる人よは久ーれんを丹ほのふ
 三石村お有右湯つとらへおものあり其女房あかお
 吳作のもれさうりて養おまよーるとえととそれより

めんじんおよび月もちて一人の男子とまふけしう其
 子うまがるより其体なふして成老のふ海まき其
 つ事あつたぞ倍もさだりたうらうらうとこの村
 ついふへより子と生しこそまき其の児れ名成他人ふ名付
 もらひ其も乃ぞん生のあひごる例年名づけ親と
 ようして歳暮のぬま舟としく米を俵とれと子しを
 ねりしが彼思ええ来不具のも乃さうしうを後あつて
 名とほくかものちなく思入とむらうとせうらものも
 の十四夜乃とくれくれお父母彼ねよむらるなんどが兒

としど免他の子どももろろね名づけ親み米ともちし
 あふよなんど竹分ることおくかえ不くとうまき名は
 け親さへあくまれくが思ひまといひとねふよく死
 てふさくび常人ふうまれ出よしおがやんかあこの
 もの父みむらぬと終ふも其俵こびたま入名付とやよそ
 るあんとしうらうらう又大みあさうしひなんどふ竹れの
 もれう名と付へさそと云々れともけ老るて米とも
 又んと云々れをぬ親米を俵とふはよびてうなんど一
 写のあひごる歩行ことおよむらるがのふらうとくさう

懐たづみ手てとかさふことのあるべしとてをみまらせねんどよ
はらまとあわるる名な付づをやめあらまよとたまむれるもど
あのもれぬとうれしたう残むせむくはらくしと立あらり
屋ぐく被たらう子を残かく子ときくくの海くと
いたた上け後ともえさしてどく行なれがま親をたま
とど後たまをきうく想ふなるぞ那へのたちよ子こへ
あまみ重たものと苦をなくかこげぬどくこそあわ
しられらうを何れのとまろみ行んと後とまらふくえ
へ隠れみ付行くが彼那へ死ぐおとくよるの本と二十

町ちやうむらりもすた行ぬぬのみこうてとせ上りしこいよく
あましみと同しとおもた付らりがびれくお大池いけ
あらういおへよります免ふところおと後ありて
小魚ととまものもおくあとくトたが泳ぬらりし
とまろみぬり水上とまらふくとあらみ平地のお
まくぬして彼池のまん中よとうくとたち懐とど
うど池へ残とたときくおまらうお空うたともり雨
あらしはくくとく澄さなりいけみ送ごちあらりしが
彼那へたちこまらう水とこまらうをり若志清門



竹藪
巻四



竹藪
巻四

七

大みねと海たまるびまうらふげりうらふ山と誰か
こ今まどろりりー一寝ねりーも晴もろく青
おしく海の落さかまとすこーもわろりーとをり
甚後なまのちまりもあうざりーと様

人の自美恥よんか話

安永の江東國一山嶽をたまといふ老あり哉
方いつものごとく出仕せんといふ堂ぞうをとり
とらう進門おまて出るがふと思ひおーなる
ふありて家内へまをんとあまうりよく

それバ供まつとたるあ人の自穢のめくろり
しがたよをさしてさくお刀の柄よまとうけ
しが是只事おあづけよく見在たる人
危も痛もろろつんと思ひさあぬ体よて
美堂よむらひ家係よん悪ーとるの出仕よ
まどろりて其後内よ入たるよ家内の老皆
く出むらひ何中序をぬめと云を自残と
れは是又とねくさるるりなむば今へたま
う縁お捨んとーるがまをたまえ来別房

安永の江東國一山嶽をたまといふ老あり哉

の者申へふく思ひたるは彼等自らの猿なりと之
 ども夢も常は寝るにたるゆへに是彼者ど
 も妖怪なるよあくど定く妖妖怪またあ
 りこそ是れ妖目よろしく見ゆるなりとて彼未妖
 怪なりともゆと見定しうへ打捨んと考て
 爰もも出さば家係よ心懸くて帰定たり医
 作何某残よび来るべと云付居間よ入く体一
 が布どまぐ医作来る小女房のまを頼下女のま
 ちうと彼医作おしも驚く多し死なむとて板

へ息の矢形は見えぬは家計りなりと思ひ板医作
 ちやるるは家分作おしも病あはれ只多りたる病
 ありゆと孫妻一の父と頼らば医作孫上後府跡る
 おもく是を作の趣おしも病多しは望むる
 とさくつとぬと昔く帰りたり病をまを
 孫子板も怪ぬるゆへとを板油乃まぐは目
 もるるよある病起くゆへは病んと板ま
 出るる形もふへと庭おと走りまわりて板も割
 勇の老らね申も家分よあつとて足まへ止

たりしがまをまぬをせう怪の家をたがう
 うぬざうーおさるとんおうーく内よ入くまは
 よ女房とそいめお内乃者もまよくえの息
 よおりたりー復おぬ家おるらるは詮方よく
 ままらるし思ひはるよりの様ふとまよーなれ
 へ皆くそい免てたまなるた居るおるは像よ隣家
 さわがーく男女の事おあまをいへられまを
 史何事やんと子迷隣へを付まよよ其家
 のある像よ程ませーや女房子供まよと願

せ其男も余成た失ひたおと居ーやどよまを
 まんまよむとろさよ進医師と進へくまを
 ぬ抱ーまよまよとてまよとよひいけそ
 の子細成向まよ是も重をまよと何くお内の
 者の息矣形よまよーや切付ーが其後わあ
 も知くばと説りたまをまよもぬ家方の様
 怪是あへ来りおのぬーおさるとんと思ひー
 がまよ何者のおるまよやあておまよら
 怪談もーおまよ卷之四



性理大全
卷四

十一

